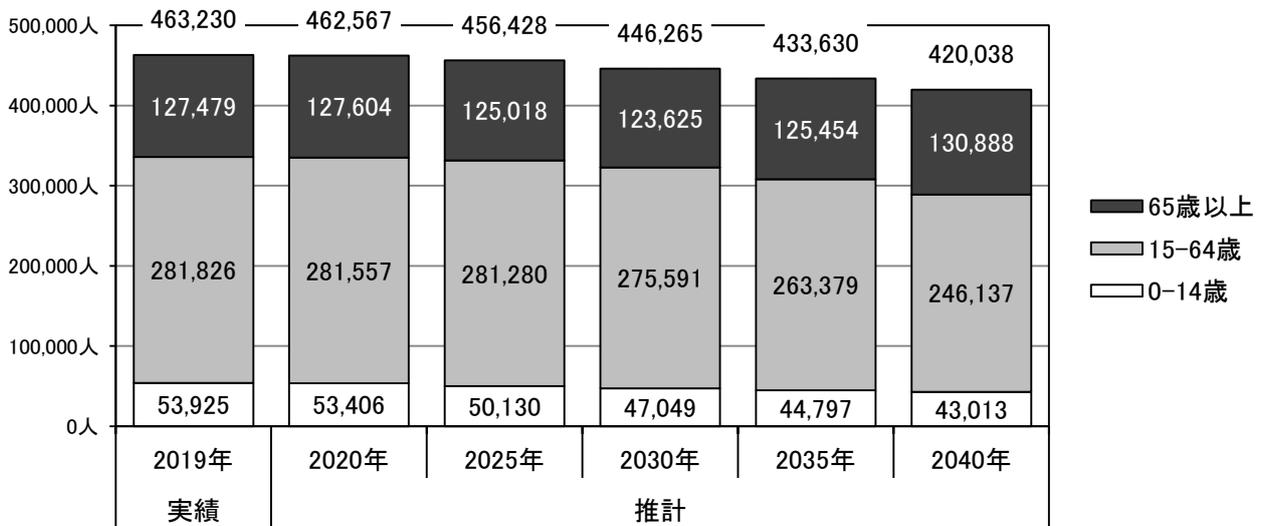


2025 年・2040 年の将来推計

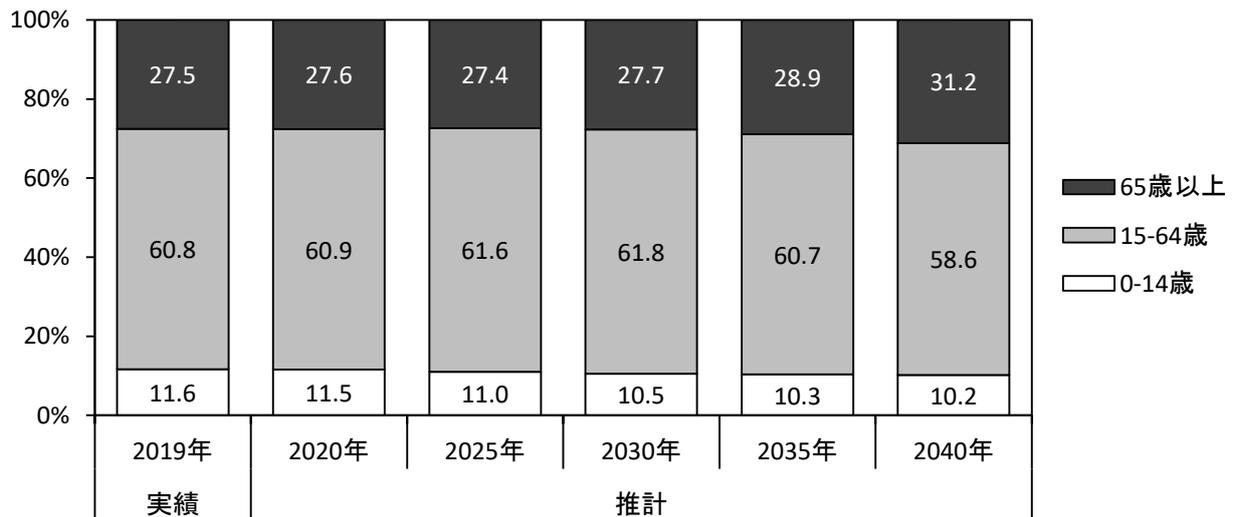
1 人口推計

- 総人口は年々減少し、2025 年で 456,428 人、2040 年で 420,038 人。
- 高齢者人口は 2020 年を境に減少するもの、2030 年に再度増加に転じ、2040 年で 130,888 人になると推計。64 歳以下の年代は一貫して減少。
- 高齢化率は、2025 年で一旦減少するものの概ね増加すると見込まれ、2040 年で 31.2%。

年齢 3 区分別人口の将来推計



年齢 3 区分別人口割合の将来推計

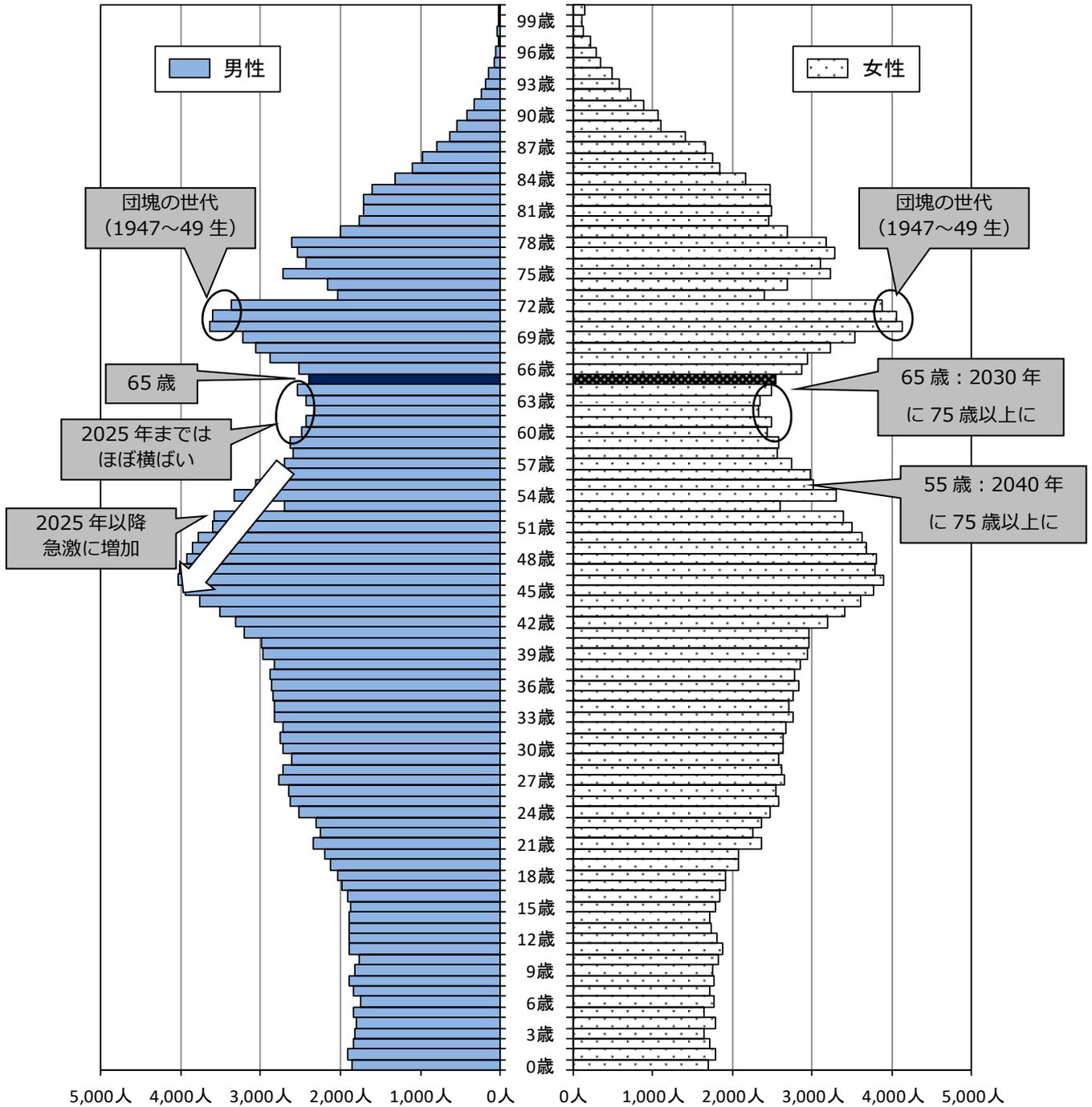


※人口推計の方法

人口推計は、2015 年（平成 27 年）から 2019 年（令和元年）の 9 月末現在の住民基本台帳人口を使用。手順としては、年齢 1 歳刻み男女別人口から各年での人口移動率を算出し、その移動率を平均化し、2040 年（令和 22 年）まで推計（移動率は推計期間中は一定であると仮定）。

- 尼崎市の人口ピラミッド（男女別年齢1歳刻み人口）をみると、今後5年間で高齢期を迎える人は少ない（60～64歳人口はほぼ横ばい）。
- 2025年以降に高齢期を迎える人は徐々に増え、2040年ごろに再度、高齢者人口のピークを迎えると推測される。

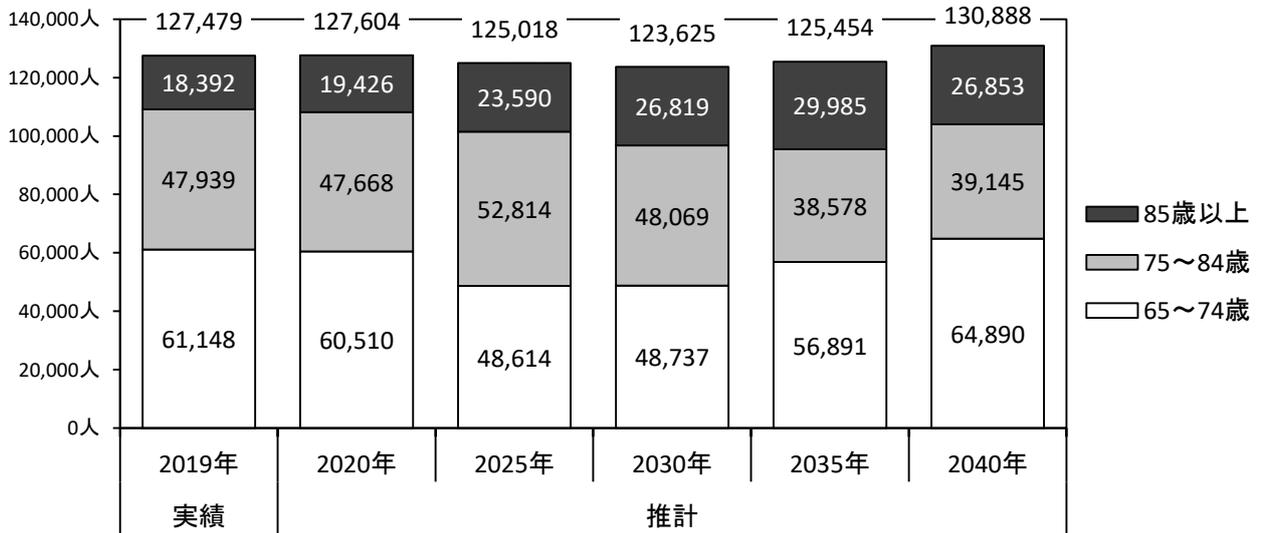
2019年人口ピラミッド（男女別年齢1歳刻み人口）



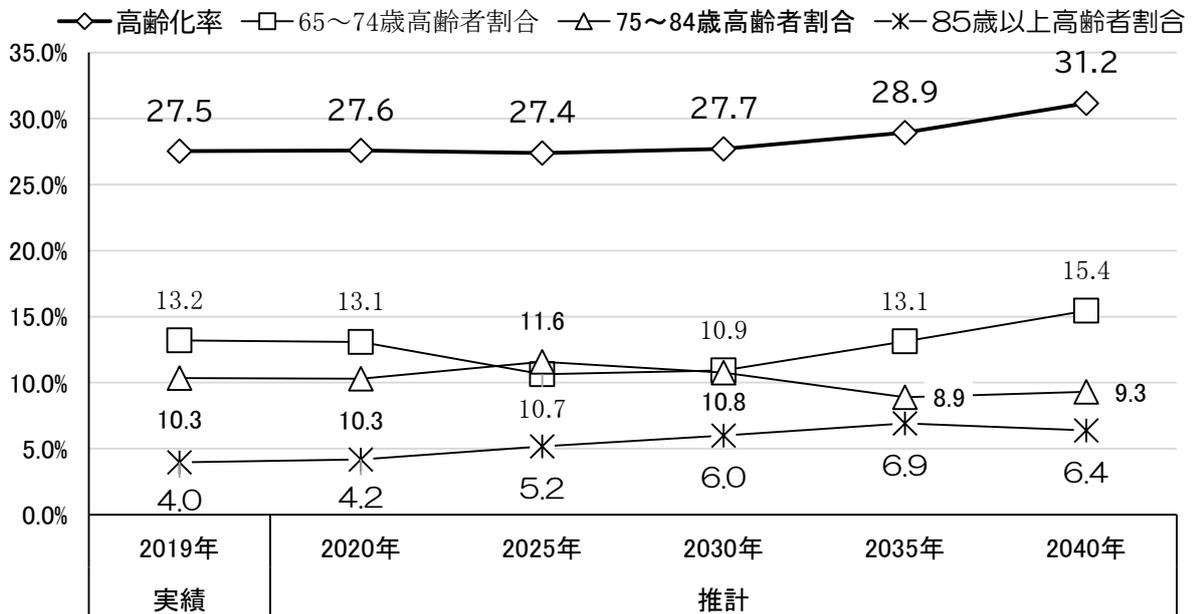
資料：尼崎市「住民基本台帳（2019年9月末現在）」

- 65～74 歳は 2025 年まで減少するものの、その後は増加に転じ、2040 年で 64,890 人（構成割合 15.4%）。
- 75～84 歳は 2025 年をピークに 2035 年まで減少、その後再度増加し、2040 年で 39,145 人（構成割合 9.3%）。
- 85 歳以上は 2035 年まで増加、2040 年で減少し 26,853 人（構成割合 6.4%）。

年齢別高齢者人口の将来推計



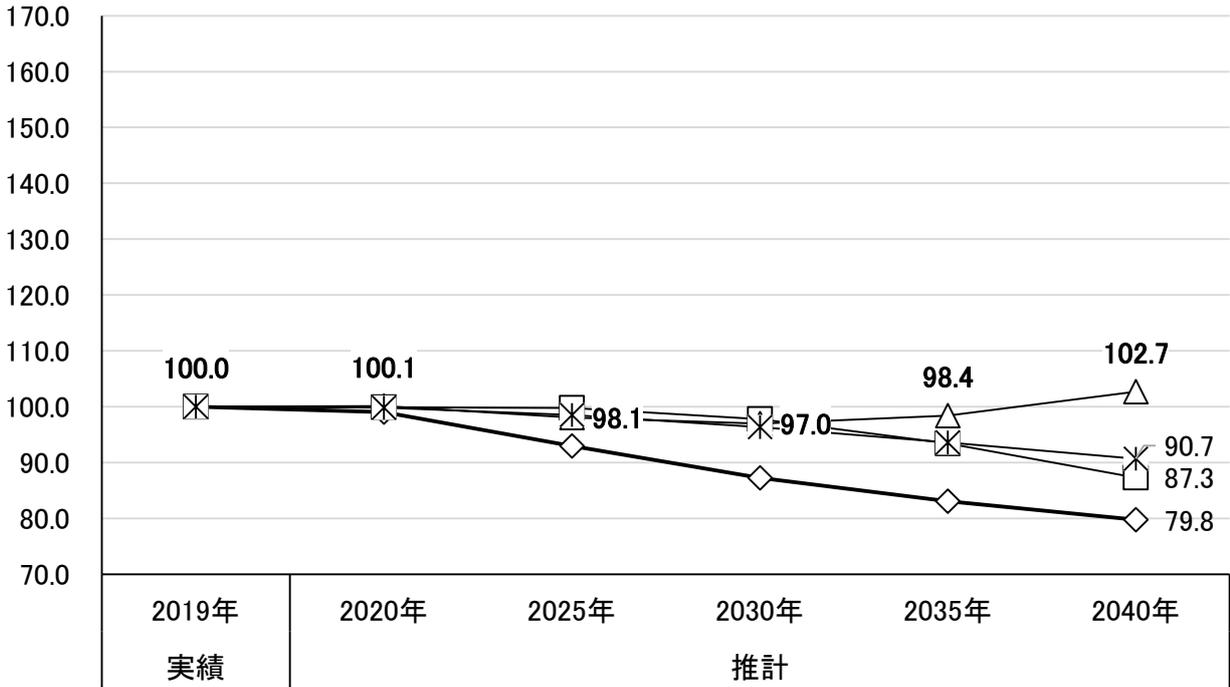
年齢別高齢者人口割合の将来推計



- 2019 年を 100.0 とした人口指数をみると、65 歳以上は 2040 年で 102.7 と微増。0～14 歳・15～64 歳は大きく減少。
- 65 歳以上全体でみた場合は微増であるが、年齢別にみると 85 歳以上の高齢者の増加が著しく、2019 年現在と高齢者人口は近いものの、85 歳以上高齢者は 2040 年までに 1.5 倍程度まで増加すると推計。

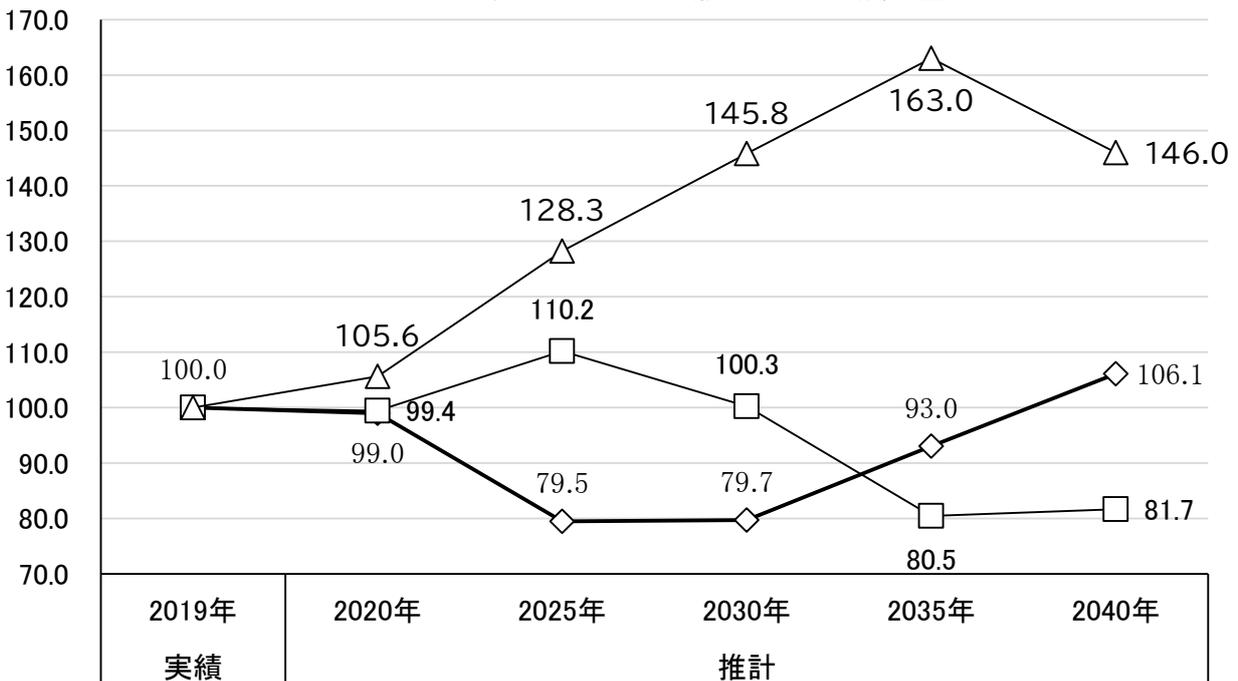
年齢 3 区分別人口の人口指数（2019 年=100.0）

—◇— 0-14歳 —□— 15-64歳 —△— 65歳以上 —*— 総人口



65 歳以上高齢者の人口指数（2019 年=100.0）

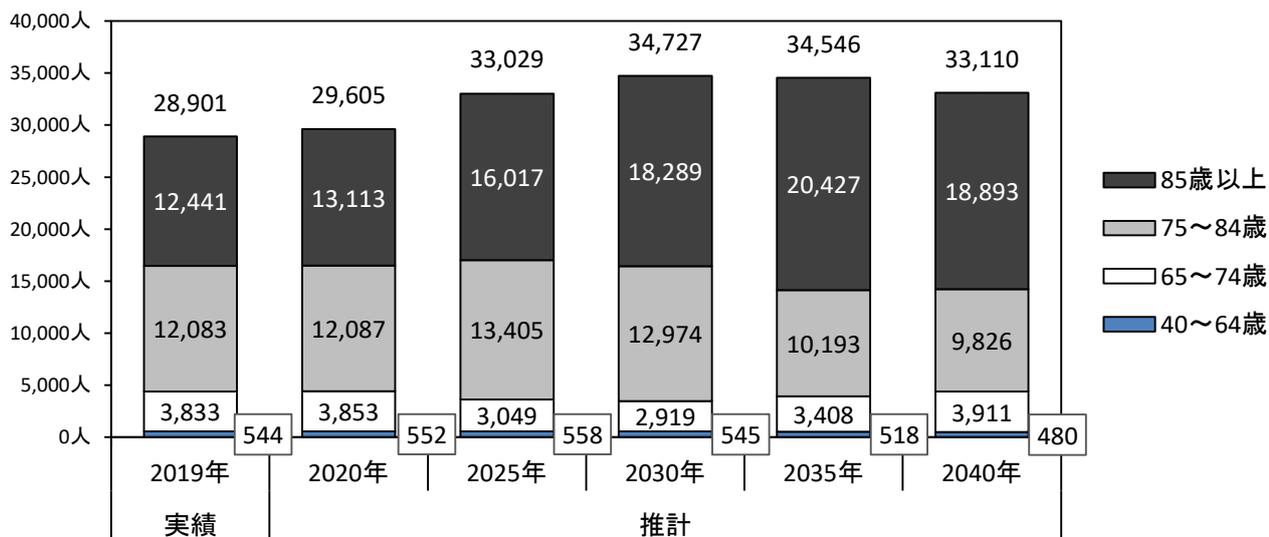
—◇— 65～74歳 —□— 75～84歳 —△— 85歳以上



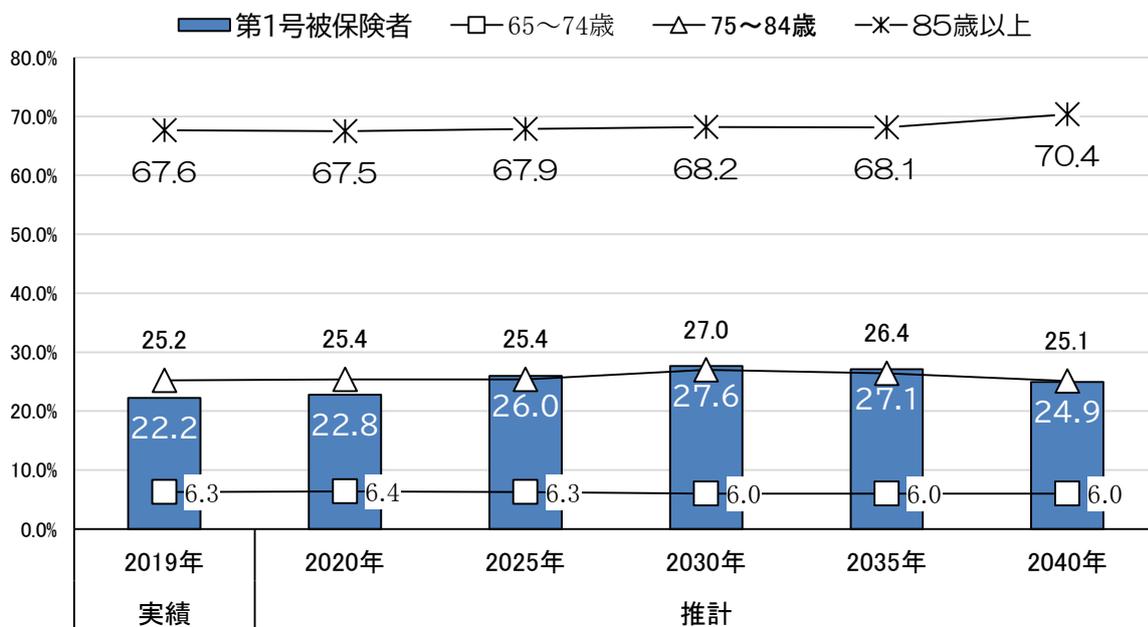
2 要支援・要介護認定者数の推計

- 要支援・要介護認定者は2030年まで年々増加するものの、その後は減少し、2040年で33,110人（要支援・要介護認定率24.9%）。
- 85歳以上の要支援・要介護認定者の増加が大きく、2040年で18,893人と、85歳以上高齢者の約7割が認定者になると推計。

要支援・要介護認定者数の将来推計

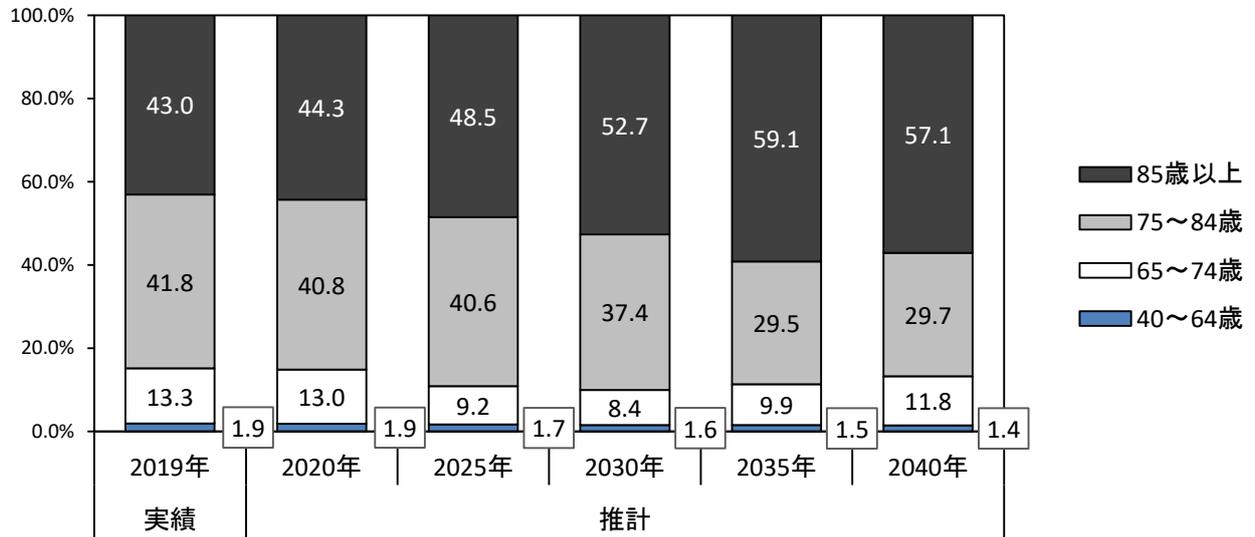


要支援・要介護認定者率の将来推計



- 要支援・要介護認定者の構成割合をみると、2019年は75～84歳・85歳以上でともに40%程度（全体の80%）を占めているが、徐々に85歳以上高齢者の占める割合が増加し、2030年で50%を超え、2040年で57.1%になると推計。

要支援・要介護認定者構成割合の将来推計



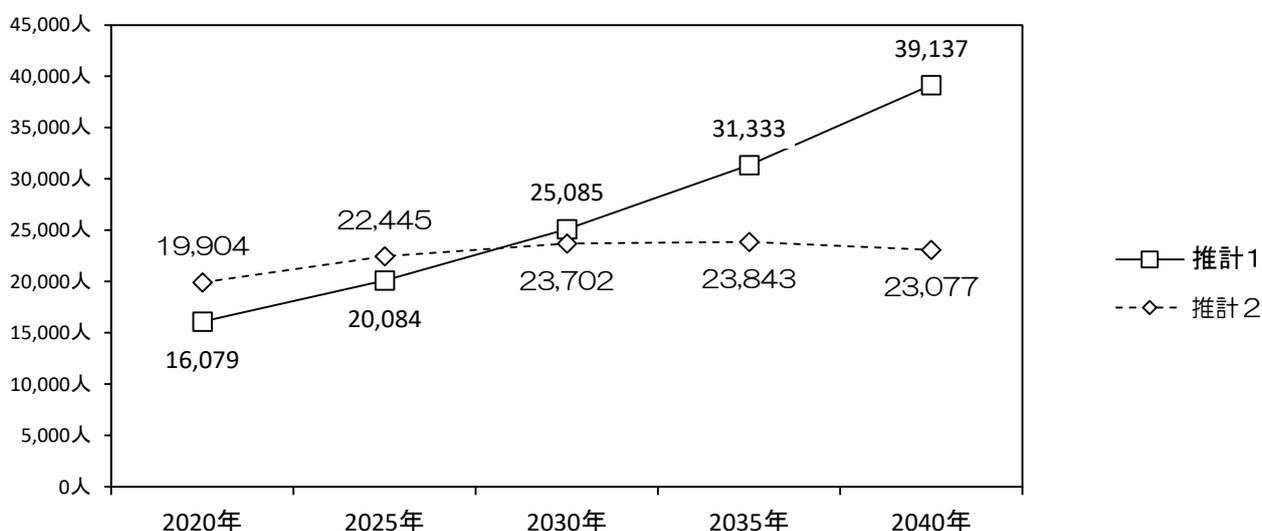
※要支援・要介護認定者の推計方法

算出した人口推計をもとに、2019年（令和元年）9月末現在の要支援・要介護認定者の男女別年齢5歳階級別の認定率を算出し、その率を乗じて算出（認定率は2040年まで一定であると仮定）。

3 認知症高齢者の推計

- 推計1は2010年から2017年における認知症自立度Ⅱ以上と判定された高齢者の伸び率平均を用い、この伸び率が2040年まで続くと仮定し推計（第7期計画）。
- 推計2は男女別年齢別認知症有病率を用い、男女別年齢別認知症有病率が2040年においても変化がないと仮定し、推計（率は、国の認知症調査研究で公表されているものを使用）。
- 推計1・推計2ともに2020年から2040年にかけて増加する推計となるが、2040年における乖離が大きい。
- 今後、高年齢の高齢者が増えていくことが想定され、推計1のこれまでの伸び率の上昇、推計2の年齢別認知症有病率とともに一定考えられる推計方法であり、考え方として2030年には23,000人から25,000人程度、認知症を有する人がいると考えられる。

認知症高齢者の将来推計



高齢者に占める認知症高齢者割合の将来推計

